

## 2022年度(令和4度)学校評価報告書

### 1. 教育目標・重点目標

本校では以下に示した建学の精神及び教育方針に基づいて「社会から必要とされる学校づくり」「安心・尊敬・信頼の対象となり、信用され得る人物の育成」を目標に日々教育活動を行っております。その教育活動等の成果を検証し改善を行うことにより、生徒がより高い教育活動を享受できるよう望ましい学校運営の発展を目指し教育水準の向上を図ります。そのための具体策として、27項目の重点目標・評価項目を設定し、教職員・保護者・生徒による三者の学校評価アンケートを実施いたしました。集計結果は別表のとおりです。内容を詳細に分析・検討し、次年度の重点目標・具体的取り組みを設定し、目標(Plan)－実行(Do)－評価(Check)－改善(Action)というPDCAサイクルに基づき継続的にその伸長・改善に取り組んでまいります。

《建学の精神》 徳・健・財、三拍子そろった姿でルールを守り、世の中のために尽くす人間となるために、勤勉努力する理想的な人物を育成する。

《教育方針》 勤勉と責任とを重んじ、自立の精神を養うと共に、明朗にして誠実、常に希望の中に幸福を見出し、社会の全てから「安心」と「尊敬」と「信頼」の対象となり、信用され得る人物を育成するため、仏教を中心とした宗教による教育を実施する。

《清風南海魂》 これらの精神を実現させるべく、清風南海魂を体得するための努力をする。  
清風南海魂を体得するために、

- 第1 正しい判断力を育成し、鋭い断行力を養うこと。
- 第2 先祖伝来の宗教を中心に敬神崇祖の念を養い、信仰心を確立し、信念と不屈の精神力を身につけること。
- 第3 常に節制を守り、体力の練磨向上を計り、徹底した精進努力をすること。
- 第4 礼節を重んじ、父母を大切にし、先祖に感謝し、年長者や先生を尊敬すること。
- 第5 素行を正しくして、常に正確な予算生活の実行者となること。
- 第6 常に自利利他・福の神のコースを脱線せぬよう心がけ、<sup>いそ</sup>急がず、<sup>や</sup>息まずの心構えで勤勉努力を続けること。

### 2. 学校評価アンケート実施と集計

- (1) アンケート実施に当たっては、教職員・保護者・生徒ともにClassieによる端末回答とした。集計処理の全工程において守秘義務厳守として匿名性の担保に配慮した。
- (2) 評価項目の内容は、教職員・保護者・生徒の各評価を比較するため同一内容とした。また、学校全体の状況を把握するため、個人ではなく学校全体の状況を問う形にした。

- (3) 評価項目は、「学校全体にかかわること」「授業にかかわること」「進路にかかわること」「生徒指導にかかわること」「特別活動にかかわること」「教育相談にかかわること」「環境美化・設備・健康管理にかかわること」「その他」の順に内容的にまとめて配列した。「その他」では、保護者への連絡、情報公開、対応および緊急事態発令時における保護者との連携・協力について問うた。
- (4) 評価基準は、①よくあてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④全くあてはまらない の4段階とした。また、⑤判断できない(よく分からない)を設定して無記入の回答を避け、今後の評価項目設定の際の参考とすることとした。
- (5) 評価レベルとしては、評価基準の①②を肯定評価、③④を否定評価として課題の整理をした。肯定評価が60%以上の項目については、継続してさらに取組を強めていく。60%未満の項目については、その内容を分析し、改善・改革に向けての検討課題とする。
- ※ 評価基準の⑤については、その数値が、①②の肯定評価、③④の否定評価に影響を及ぼしていると思われる項目において分析の際に考慮することとした。
- ※ %は下1桁を四捨五入した結果、合計で100%にならないものもある。
- (6) アンケートの参加人数・参加率は次の通りであった。
- |      |          |          |                     |
|------|----------|----------|---------------------|
| 教職員： | 対象人数 94名 | 参加人数 94名 | 回答率 100% (前年度 100%) |
| 保護者： | 1711名    | 1094名    | 64% (前年度 64%)       |
| 生徒：  | 1711名    | 1606名    | 94% (前年度 92%)       |
- ・達成・取組状況：参加率(回収率)に関しては、1週間の回答期間を設けた端末解答であったが、教職員は休職者を除き全員が参加、生徒は94%が参加した。保護者は全体で64%で、学年別では中1が83%と最も高く、中2は64%、中3は60%で、高校では高1が70%、高2は56%、高3では51%と学年が上がるにつれて減少している。中学校の平均は69%、高校は59%であった。
- ・改善方策：次年度もこの方式で実施し、保護者の参加率を高めるよう心がける。

### 3. 学校評価：達成・取組状況及び今後の改善方策

#### (1) 全体について

- ① 全評価項目27項目の評価結果の平均は、①よくあてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④全くあてはまらない ⑤判断できない(よく分からない)の順に、
- |     |      |      |      |     |      |     |      |      |     |     |     |
|-----|------|------|------|-----|------|-----|------|------|-----|-----|-----|
| 教職員 | ①31% | ②50% | ③11% | ④2% | ⑤6%  | 保護者 | ①40% | ②45% | ③8% | ④1% | ⑤6% |
| 生徒  | ①33% | ②43% | ③10% | ④3% | ⑤11% |     |      |      |     |     |     |
- ・達成・取組状況：評価基準⑤判断できない(よくわからない)の比率が、教職員と生徒は前年とほぼ同じであるが、保護者では12%から6%(人数に換算すると137人から66人)に減少している。
- ⑤判断できない(よく分からない)：教職員 6%→6%      保護者 12%→6%      生徒 13%→11%

コロナ禍において学校の発信する様々な取り組みが、保護者に対して具体的な教育活動のイメージを与えたことが原因として考えられる。

・改善方策：評価基準⑤の数値を一層下げよう、具体的な教育活動を発信し、分析し改善を図る。

- ② 全評価項目 27 項目の教職員・保護者・生徒の三者平均は、①よくあてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④全くあてはまらない ⑤判断できない(よく分からない)の順に、

① 35%          ② 46%          ③ 10%          ④ 2%          ⑤ 8%

・達成・取組状況：総合的にみて前年度並みの評価である。

① 34%→35%   ② 43%→46%   ③ 11%→10%   ④ 2%→2%   ⑤ 10%→8%

・改善方策：詳細に分析し、さらなる改善を図る。

- ③ 全評価項目 27 項目の①+②肯定評価-③+④否定評価-⑤判断できない、の平均は順に、  
教職員 81%-13%-6%    保護者 84%-9%-6%    生徒 76%-13%-11%  
であった。

・達成・取組状況：教職員・保護者・生徒とも前年度を上回る高い評価である。日々努力している結果が見られ、着実に改善されていることが窺える。

肯定評価①+②：教職員 80%→81%    保護者 79%→84%    生徒 73%→76%

・改善方策：継続してさらに取組を強めていく。

- ④ 全評価項目 27 項目の肯定評価・否定評価・判断できない、の教職員・保護者・生徒の三者平均は、①+②肯定評価、③+④否定評価、⑤判断できない(よく分からない)の順に、

①+② 80.3%          ③+④ 11.7%          ⑤ 7.7%

・達成・取組状況：前年度と同様の評価である。

①+② 77.3%→80.3%    ③+④ 12.3%→11.7%    ⑤ 10.3%→7.7%

・改善方策：詳細に分析しさらなる改善を図る。

- ⑤ 全評価項目 27 項目のうち肯定評価が 60%以上の項目数は、

教職員 27 項目 (100%)    保護者 27 項目 (100%)    生徒 26 項目 (96%)

・達成・取組状況：教職員・保護者は前年度と同様、非常に高い評価で、日々努力している結果が見られる。

教職員 27/27 項目 (100%) → 27/27 項目 (100%)

保護者 27/27 項目 (100%) → 27/27 項目 (100%)

生徒 25/27 項目 (93%) → 26/27 項目 (96%)

・改善方策：生徒の肯定評価 60%以上が全ての項目で得られるよう、取組を強めていく。

⑥ 全評価項目 27 項目のうち肯定評価が否定評価を上回る項目数は、

教職員 27 項目 (100%)      保護者 27 項目 (100%)      生徒 27 項目 (100%)

・達成・取組状況：教職員・保護者・生徒の三者共前年度同様、全項目において肯定評価が否定評価を上回った。日々地道に努力していることが窺える。

教職員 27/27 項目(100%) → 27/27 項目(100%)

保護者 27/27 項目(100%) → 27/27 項目(100%)

生徒 27/27 項目(100%) → 27/27 項目(100%)

・改善方策：継続してさらに努力していく。

(2) 各項目について

【学校全体にかかわること：質問項目 1-3】

1. 「本校の教育は全般的に満足できる」

肯定－否定評価：教職員 89%－6%      保護者 94%－5%      生徒 84%－13%

・達成・取組状況：教職員・保護者・生徒の三者共前年度同様の高い評価である。保護者の肯定評価は 94%と前年(92%)以上に高く、建学の精神・教育方針に基づいた日々の教育活動が理解され、適切な取組が行われていることが窺える。

・改善方策：生徒がさらに一層高い教育活動を享受できるよう教育水準の向上に努めるとともに、学校の活性化や信頼される魅力ある学校づくりを進める。

2. 「本校は建学の精神・教育方針を日々の教育に生かしている

肯定－否定評価：教職員 81%－17%      保護者 90%－5%      生徒 72%－18%

・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様の評価である。教職員・保護者に比べ生徒の評価がやや低いのは、内容が抽象的で、具体的なイメージを抱きにくいことがその理由と思われる。建学の精神・教育方針に基づいて「安心・尊敬・信頼の対象となり、信用され得る人物の育成」を目標とする教育活動、それらを実現させるために体得すべき清風南海魂を全教職員・全生徒の間で共有し、それらに向けた意識を一層醸成するようにする必要がある。

・改善方策：教職員は建学の精神・教育方針・清風南海魂を常に意識し、生徒に常日頃から折に触れ、具体的行動でもって周知徹底し、生徒に浸透させるよう努める。

3. 「本校は学力向上をめざして積極的に取り組んでいる」

肯定－否定評価：教職員 95%－3%      保護者 96%－3%      生徒 91%－5%

・達成・取組状況：三者共非常に高い評価である。保護者及び生徒が現在の取組を理解し評価してくれていることが窺える。

・改善方策：難関大学・学部への進学校として、この評価結果を踏まえた改善方策について組織的・効果的に取組を進めていく。

【授業にかかわること：質問項目 4-9】

4. 「本校の多くの授業は内容が充実しており、また理解できるように工夫されている」

肯定－否定評価：教職員 94%－ 1% 保護者 85%－ 8% 生徒 89%－ 7%

・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様のかなり高い評価である。保護者及び生徒が教職員の授業での取組をかなり評価していることが窺える。『教職員個々のチャレンジプラン（自己目標）』『全校生徒による全教科目授業アンケート』『教職員間授業見学』『教職員研修会』『保護者対象授業参観』等の一層の充実を図り、指導内容や説明・板書・発問などの指導方法についてさらに工夫を重ねる等個々のスキルアップを目指す。

・改善方策：“授業第一主義”の本校として地道で継続的な取組を進める。また、ICTの積極的な活用などによる協働型・双方向型の授業革新を推進し、教育の質の向上を目指す。

\* ICT: information and communication technology (情報通信技術)

5. 「本校の先生は教科の質問にきちんと対応している」

肯定－否定評価：教職員 98%－ 0% 保護者 89%－ 4% 生徒 92%－ 3%

・達成・取組状況：三者共前年度の非常に高い評価を維持している。教職員が“生徒の質問に誠実に対応している”結果の評価であることが窺える。

・改善方策：生徒の肯定評価を高めるため、継続してさらなる伸長・改善に取り組む。

6. 「本校では学習や進路に関する生徒個人面談が十分に実施されている」

肯定－否定評価：教職員 85%－10% 保護者 83%－11% 生徒 77%－11%

・達成・取組状況：三者共高い評価である。生徒一人ひとりに応じた指導を、『面談期間』や『生徒個人面談』で実施している教職員の熱意が伝わっているのか、生徒の満足度も高い。

・改善方策：生徒の適性を発見し能力を引き出し、それを発揮できるようにするための工夫を試みながら、生徒の人格的発達のための指導に継続して取り組んでいく。

7. 「本校生は各自の目標をめざして学習に意欲的に取り組んでいる」

肯定－否定評価：教職員 82%－14% 保護者 87%－ 8% 生徒 79%－12%

・達成・取組状況：三者共高い評価を得た。

・改善方策：生徒の実態と教員の評価基準を確認し、生徒の発達段階や学力・能力に即した指導とモチベーションの維持・向上に向けて一層の取組と創意工夫に努める。

8. 「本校が早朝・放課後や休暇中に行っている補習授業等は生徒の学力向上に役立っている」

肯定－否定評価：教職員 82%－13% 保護者 82%－ 8% 生徒 81%－8%

肯定評価①+②：中学生 81% 高校生 82% 中・高合計 80%

否定評価③+④：中学生 7% 高校生 8% 中・高合計 9%

・達成・取組状況：中学生、高校生とも、肯定評価が前年度とほぼ同じで、否定評価は一桁である。コロナ禍の中、人混みの中の往来に不安を感じるよりも、学校で実施される補習授業の方が、安心感をもって受講ができるためと思われる。

肯定評価①+②：中学生 76%→81% 高校生 82%→82% 中・高合計 80%→80%

否定評価③+④：中学生 8%→7% 高校生 9%→8% 中・高合計 9%→9%

・改善方策：生徒の実態を踏まえた、個別指導やグループ別指導、習熟度に応じた指導、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習、N-PREP、オンラインN-PREPの導入など、個に応じた指導の方法・計画等のさらなる効果的な取組を進める。

#### 9. 「本校の各学年の校内実力テスト・業者テストは適切に計画・実施されている」

肯定－否定評価：教職員 73%－19% 保護者 93%－4% 生徒 85%－9%

・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様の評価である。保護者、生徒は肯定評価が93%、85%と非常に高く、信頼度の高さを再認識することができた。継続してさらに充実を図っていく。

・改善方策：校内のテストは内容を吟味・検討し、業者テストは、その内容および実績と信頼度を常に検証しつつ、採用の是非および実施日程を決定する。

#### 【進路にかかわること：質問項目 10－12】

#### 10. 「本校の各学年の進路指導は生徒一人ひとりの目標達成に役立つように行われている」

肯定－否定評価：教職員 79%－11% 保護者 72%－13% 生徒 73%－10%

⑤判断できない：教職員 11% 保護者 16% 生徒 17%

肯定評価①+②：教職員 79%→79% 保護者 62%→72% 生徒 67%→73%

否定評価③+④：教職員 13%→11% 保護者 13%→13% 生徒 12%→10%

・達成・取組状況：保護者、生徒は、前年度をそれぞれ10%、6%上回る評価である。

・改善方策：社会構造や人口構成の変化とそれに伴う進路選択の多様化を踏まえ、能力・適正等の理解に必要な資料や進路情報の収集・活用を推進し、各学年において目標を適切に設定し、組織的・継続的に伸長・改善に取り組むとともに、個に応じた適宜・適切な指導の一層の充実を目指す。また、保護者に対して進路情報や資料の提供を積極的に行い、生徒の進路選択や将来設計への意識を一層高めていただくよう取り組む。

#### 11. 「本校の保護者面談週間の面談内容・面談形式・日程等は適切である」

肯定－否定評価：教職員 65%－24% 保護者 91%－7% 生徒 77%－6%

・達成・取組状況：保護者・生徒は前年度(86%・71%)より高い評価である。各家庭のライフスタイルを十分に考慮しすることが保護者の参加を促進することに繋がると思われる。

・改善方策：保護者の生活スタイルに十分配慮して、学校・生徒に関する様々な情報を分かり易く提供するとともに、効果的な取組に向けてさらに改善を進める。

12. 「本校の保護者対象授業参観週間の参観要領・授業内容・日程等は適切である」

肯定－否定評価：教職員 73%→20% 保護者 81%→14% 生徒 72%→7%

肯定評価①+②：教職員 67%→73% 保護者 65%→81% 生徒 64%→72%

否定評価③+④：教職員 20%→20% 保護者 13%→14% 生徒 8%→7%

・達成・取組状況：肯定評価が保護者で16%、生徒で8%上昇している。前年度は第2学期の面談週間は実施できたものの、感染予防のため必要最小限の人数にとどめ、授業参観は中止せざるをえなかったが、今年度は従来の形で授業参観も実施できたことがその理由であると考えられる。

・改善方策：学校と家庭の共通理解と連携協力の推進を通じて、それぞれの教育力が高められるよう、組織的にさらなる伸長・改善に取り組む。

【生徒指導にかかわること：質問項目 13－14】

13. 「本校生は校則やきまりをおおむね守っている」

肯定－否定評価：教職員 66%→33% 保護者 90%→6% 生徒 68%→26%

肯定評価①+②：教職員 74%→66% 保護者 88%→90% 生徒 70%→68%

否定評価③+④：教職員 26%→33% 保護者 6%→6% 生徒 24%→26%

・達成・取組状況：保護者は前年度以上の高い評価で、その期待の大きさについて再認識できたが、教職員・生徒の評価と保護者の評価の差が大きく、校則に対する認識と遵守目標のレベル差が感じられる。

・改善方策：教職員全体として生徒の問題行動の状況を共有し、学校内だけでなく、社会の一員としての意識（公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど）を身につけた生徒を育成する。また、近年急増している SNS による諸問題に関して、社会の常識、規範意識の向上に生徒各人の自覚を促して指導していくことが課題である。

14. 「本校では日頃から基本的な生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーについての指導が行われている」

肯定－否定評価：教職員 87%→12% 保護者 92%→5% 生徒 87%→8%

・達成・取組状況：三者共前年度と同様の高い評価である。保護者は前年度(89%)以上の高い評価で、その信頼の厚さについても再認識できた。教職員・保護者・生徒が一体的に取り組み、努力を重ねていることが窺える。さらに一歩進め、生徒が自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができるような指導を心がける。

・改善方策：保護者と連携協力して基本的な生活習慣を身につけさせるための工夫を試みる。

【特別活動にかかわること：質問項目 15－17】

15. 「本校では校外学習・文化系行事・体育系行事などの学校行事が充実している」

肯定－否定評価：教職員 74%－21% 保護者 71%－27% 生徒 58%－37%

・達成・取組状況：一昨年度は大半の行事が中止・延期となったため、三者とも前年度を大きく下回ったが、前年度は依然同じ状況が続いている中で安全を配慮し、可能な限り実施した。今年度は制限下ではあるが、本来の行事にかなり近づけることができた。コロナ禍3年間の評価の変遷は次のとおりである。

肯定評価①+②：教職員 66%→72%→74% 保護者 59%→61%→71% 生徒 50%→54%→58%

否定評価③+④：教職員 26%→22%→21% 保護者 30%→32%→27% 生徒 41%→40%→37%

・改善方策：今後とも生徒の安全を最優先して、各学年の実態や生徒の発達段階に応じた諸行事の目標等の達成に向けた意識を共有し、現状を踏まえたうえで知恵を出し合って創意工夫し改善に取り組む。

#### 16. 「本校の学校行事は、保護者が参加しやすいように日程等が配慮されている」

肯定－否定評価：教職員 66%－27% 保護者 86%－12% 生徒 68%－18%

⑤判断できない：教職員 7% 保護者 2% 生徒 14%

コロナ禍3年間の評価の変遷は次のとおりである。

肯定評価①+②：教職員 66%→62%→66% 保護者 77%→67%→86% 生徒 60%→62%→68%

否定評価③+④：教職員 30%→24%→27% 保護者 12%→17%→12% 生徒 20%→18%→14%

・達成・取組状況：保護者は、前年度は一昨年度を大きく下回ったが、今年度は一昨年度を上回る高い評価であった。

・改善方策：各々の行事を個別に分析・検討し、さらに一層参加していただくために組織的・継続的に工夫・改善に取り組んでいく。

#### 17. 「本校の部活動は、学習と両立しており、学校生活を充実させるためのものになっている」

肯定－否定評価：教職員 74%－17% 保護者 76%－16% 生徒 70%－18%

コロナ禍3年間の評価の変遷は次のとおりである。

肯定評価①+②：教職員 73%→73%→74% 保護者 72%→71%→76% 生徒 68%→68%→70%

否定評価③+④：教職員 23%→24%→17% 保護者 16%→17%→16% 生徒 18%→18%→18%

・達成・取組状況：大半の部活動が一昨年度の活動不能状態から段階的に回復しつつある状況で、三者ともこの3か年は同様の評価である。コロナ禍の状況とは無関係に、保護者・生徒ともに“部活動は学習との両立が大前提” “学習のための部活動”という本校の方針を十分理解しているように思える。

・改善方策：学習優先の中でのクラブ活動として、学習と相乗的効果をもたらす部活動を目指して組織的にさらなる工夫・改善に取り組む。また、「教員の働き方改革」の趣旨に鑑み、進学校としての学習指導と部活動指導の両立を目指すよう努める。

【教育相談にかかわること：質問項目 18－19】

18.「本校の人権学習は効果的に行われている」

肯定－否定評価：教職員 64%→28% 保護者 72%→7% 生徒 72%→17%

⑤判断できない：教職員 9% 保護者 21% 生徒 11%

肯定評価①+②：教職員 65%→64% 保護者 62%→72% 生徒 71%→72%

否定評価③+④：教職員 30%→28% 保護者 4%→7% 生徒 16%→17%

⑤判断できない(よく分からない)：教職員 5%→9% 保護者 34%→21% 生徒 13%→11%

・達成・取組状況：保護者の⑤が13%減少した分が肯定評価の10%上昇、否定評価の3%上昇に回っている。保護者にとっては具体的なイメージを描きにくい項目であるが、コロナに起因する学級閉鎖や自宅待機の案内文等においては、必ず、「風評被害等のなきようご理解とご協力をいただきたい」とお願いしていること等が、本校の人権尊重の姿勢を印象づけ、肯定評価の上昇の一助となったことが考えられる。全教職員の間で“人権学習”の目標を共有し、その達成に向けた意識を醸成するようにする。また、命の大切さを説き、相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる生徒を育成するための指導に努める。

・改善方策：各学年の『修養行事』『人権に関する講話』『人権教育アンケート』『生活実態調査』、『人権に関する講演会』『人権に関する職員研修』等を効果的に活かし、日常生活に根付いたものとなるように指導をさらに工夫・改善する。

19.「本校生は悩み事や困ったことについて、先生に気軽に相談している」

肯定－否定評価：教職員 81%→11% 保護者 72%→16% 生徒 65%→23%

⑤判断できない：教職員 9% 保護者 12% 生徒 12%

肯定評価①+②：教職員 83%→81% 保護者 61%→72% 生徒 63%→65%

否定評価③+④：教職員 11%→11% 保護者 15%→16% 生徒 22%→23%

⑤判断できない(よく分からない)：教職員 6%→9% 保護者 25%→12% 生徒 14%→12%

・達成・取組状況：上記項目18と同様、保護者の⑤が13%減少し、肯定評価が11%、否定評価が1%上昇している。コロナ禍に起因して、家庭で学校のことを話題にする機会が増えているのかもしれない。教職員・生徒は前年度同様の評価で、中学校、高校、男女別の評価にも前年度と大きな差はみられない。

肯定評価①+②：中学生男子 66%→65% 中学生女子 57%→60%

高校生男子 65%→65% 高校生女子 65%→71%

否定評価③+④：中学生男子 18%→23% 中学生女子 28%→29%

高校生男子 23%→21% 高校生女子 21%→18%

中学校・高校の学齢期は、男女とも非常に多感な時期であり、悩みや心配事の相談相手の選別は、その内容により男女とも個々人でかなり異なる。よき相談相手として気軽に相談できる対象としての教職員を目指して常日頃から自らを改革し、生徒一人ひとりにより一層きめ細かい目配りと対応ができる、信頼される教師像を再確認し、さらに一層努力する必要性を再認識した。

・改善方策：生徒にとって必要とされる教師像を再確認し、教職員と生徒との豊かな人間関係を構築し、男性教員、女性教員のバランスのとれた配置を心掛け、子どもの人格の完成を目指して、あらゆる相談に適切に対応できるよう努力する。また、今年度途中から複数の専門職女性カウンセラーを曜日を違えて配置して、生徒の悩み事相談のニーズに対応している。

【環境美化・設備・健康管理にかかわること：質問項目 20-22】

20. 「本校生は清掃活動やごみの分別など、環境美化に取り組んでいる」

肯定－否定評価：教職員 73%－23% 保護者 77%－6% 生徒 71%－20%

⑤判断できない：教職員 3% 保護者 18% 生徒 10%

・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様の評価である。環境に対する意識は社会生活において求められる基本であり、高いレベルで維持され、常に実践されるべきであると考え。

・改善方策：毎月1回の『校内大掃除』、年2回の『コミュニティ・サービス（学校周辺地域の清掃活動）』等を意識付けの特別日とし、生徒一人ひとりが“環境美化に関して自分に何ができるか”を考え、具体的取組に反映させる。

21. 「本校の施設・設備はよく整備されている」

肯定－否定評価：教職員 95%－1% 保護者 84%－10% 生徒 80%－13%

・達成・取組状況：三者とも前年度と同様の高い評価である。学習・生活環境のさらなる充実に向けて組織的・効果的に取組を進めていく。ICT教育の導入も積極的に推進していく。

・改善方策：『防犯講習会』『防災訓練』『防犯教室』『交通安全教室』『犯罪被害防止教室』『非行防止教室』『薬物乱用防止・防犯教室』『地震・津波警報発令時避難訓練』『教職員救急蘇生法・AED（自動体外式除細動器）研修会』等の成果を踏まえ、施設・設備の充実はもとより、教職員・生徒の安全対応能力の向上を図る。

22. 「本校では健康管理が行き届き、安全な学校生活が送れるような配慮がなされている」

肯定－否定評価：教職員 89%－6% 保護者 90%－5% 生徒 85%－9%

・達成・取組状況：三者共前年度と同様の非常に高い評価である。生徒を対象とする保健衛生に関する態勢整備や指導・相談の実施に組織的、継続的に取り組んでいく。

・改善方策：日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組をさらに推進する。

【その他：質問項目 23-27】

23. 「本校は保護者から学校へ気軽に相談できる雰囲気がある」

肯定－否定評価：教職員 82%－13% 保護者 77%－20% 生徒 63%－16%

⑤判断できない：教職員 5% 保護者 3% 生徒 21%

・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様の評価で、保護者にはかなり好意的に受け取っていただいているようである。

・改善方策：保護者の意見や要望の把握・対応に組織的・継続的に取り組み、より良い信頼関係の構築に努める。

#### 24. 「本校では保護者への連絡や情報公開は適切に行われている」

肯定－否定評価：教職員 84%－11% 保護者 90%－7% 生徒 74%－13%

肯定評価①+②：教職員 80%→84% 保護者 87%→90% 生徒 70%→74%

否定評価③+④：教職員 14%→11% 保護者 9%→7% 生徒 16%→13%

・達成・取組状況：三者共前年度と同様の高い評価であるが、保護者の評価は教職員よりも高い。Classi やさくら連絡網の利用が定着し、敏速かつ的確に情報連絡が行われていることが保護者とのより良い信頼関係の構築に繋がっていると思われる。本校の取組をより広く周知するための工夫を組織的・効果的に進めていく。

・改善方策：学校に関する様々な情報の伝達・公開を適切に行い、共通理解を通じて、相互の連携協力の促進が図られ、学校・家庭それぞれの教育力が高められていくように、さらに一層の伸長・改善に取り組む。

#### 25. 「本校への電話や訪問の際に学校はていねいに対応している」

肯定－否定評価：教職員 90%－1% 保護者 95%－3% 生徒 74%－6%

⑤判断できない：教職員 6% 保護者 1% 生徒 20%

・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様の評価で、特に保護者の非常に高い評価は、教職員の適切な対応の結果であることが窺える。学校への要望、現状の認識、対処方法等を全教職員の間で共有し、組織的に取り組む体制の整備に留意する。

・改善方策：継続してさらに伸長・改善に取り組む。

#### 26. 「本校では非常時・緊急時の生徒や保護者への連絡は迅速・的確に行われている」

肯定－否定評価：教職員 89%－1% 保護者 89%－5% 生徒 67%－12%

・達成・取組状況：一昨年度、前年度に続き高い評価である。Classi やさくら連絡網の利用により、敏速かつ的確に情報連絡が行われていることが窺える。

コロナ禍3年間の評価の変遷は次のとおりである。

肯定評価①+②：教職員 90%→87%→89% 保護者 92%→87%→89% 生徒 65%→65%→67%

否定評価③+④：教職員 5%→7%→1% 保護者 6%→5%→5% 生徒 20%→15%→12%

・改善方策：常に敏速かつ正確に情報収集・分析を行い、ICT ツールを活用して、これまで以上に迅速かつ的確な連絡を心がける。今後とも、非常時・緊急時であっても状況に適切に応じた、生徒や保護者への連絡を心掛けたい。

## 27. 「本校では非常時・緊急時の学習指導は適切に行われている」

肯定－否定評価：教職員 81%－9% 保護者 76%－11% 生徒 76%－12%

コロナ禍3年間の評価の変遷は次のとおりである。

肯定評価①+②：教職員 87%→83%→81% 保護者 79%→76%→76% 生徒 75%→72%→76%

否定評価③+④：教職員 6%→6%→9% 保護者 11%→8%→11% 生徒 13%→12%→12%

・達成・取組状況：三者共概ね昨年度と同様の高い評価である。一昨年度の緊急事態宣言による臨時休校期間中に実施した、課題および学習時間割の送付・配信と課題の回収、採点、評価、動画配信、双方向による朝礼・点呼等を随時実行できるよう、全職員を対象にリモート授業の研修を実施し、緊急時の対応と指導に万全の準備を行っている。

・改善方策：今後の非常時・緊急時の学習指導に即座に効率よく対応できるよう、教材の準備・開発を推進する。

## 4. 学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会を開催し、自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策、次年度の重点目標や評価項目等の在り方等についての評価を行った。また、学校の現状について委員と学校の相互の共通理解を深めるための意見交換を行った。

上に掲げた事項以外の意見・提言

・学校評価に関する取り組みは2008年度から実施されているが、今年度の学校評価の結果により、この3年間のコロナ禍において真摯に、そして懸命に教育活動に励んでいる学校の姿が明確に見て取れる。いくつかの項目での保護者の肯定評価の増加はそのことを反映していると思われ、学校の日々の教育活動の充実を確信させる。

・各教職員は、この学校評価結果の生徒・保護者の声を真摯に受け止め、生徒がより良い教育活動を享受できるよう、建学の精神と教育方針に基づき一層の研鑽を積んでいただきたい。

・学校に対する保護者の関心が高まり、教職員の「働き方改革」が声高に叫ばれる昨今、コロナ禍による困難な状況のなかにあつて、学校の現状、生徒の現状に関して保護者との共通理解を持つことにより、相互の連携協力の促進を図り、学校・家庭それぞれの教育力が高められることを期待している。

・知と心の教育で生徒の人格の完成を目指し、価値観の多様化するグローバル社会において、世界を牽引する人材の育成に向けて、一層充実した教育活動を進めていただきたい。

・2013年に創立50周年記念事業の一環として、新キャンパスの整備がなされ、2015年に文部科学省よりスーパーグローバルスクール(SGH)指定校に選ばれ、2020年度からは、新たに文部科学省が打ち出したWWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアムの連携校として「グローバル探究ゼミ」を高等学校の「学校教科」として設定し、より一層充実したグローバル教育を行ってこられた。この道のりをみ仏のお導きとし、さらに飛躍し、建学の精神及び教育方針に基づいた教育活動をより充実したものにしていきたい。

本校としては、学校関係者評価委員会の評価を受け止め、今後も学校評価を教育水準の向上と保証を図るためのツールとして活用し、生徒・保護者の満足度の高い学校づくりに邁進し、その負託に応じていく所存です。

#### **5. 自己評価及び学校関係者評価の結果の公表、報告書の設置者への提出**

自己評価及び学校関係者評価の結果について、本校ホームページに掲載し公表した。また、それらを取りまとめた報告書を設置者に提出した。

※この報告書は、自己評価の結果と学校関係者評価の結果を併せてとりまとめ、作成した。

以上

2022(令和4)年度 学校生活評価(生徒対象) アンケート

2022年11月  
清風南海中学校・高等学校  
校長 平岡 正

本校では建学の精神・教育方針に基づいて「社会から必要とされる学校づくり」「安心・尊敬・信頼の対象となり、信用され得る人物の育成」を目標に日々教育活動を行っています。この調査は、生徒の皆さんの学校生活をより充実したものにし、学校をさらによくしていくための資料を得るために実施するものです。あとの質問について、生徒の皆さんが平素どのように感じているか、率直に回答してください。ご協力をお願いします。

- ①よくあてはまる                      ②ややあてはまる  
③あまりあてはまらない              ④全くあてはまらない  
⑤判断できない(よく分からない)

集計結果

番号	質問項目	①	②	③	④	⑤
1	わたしにとって本校での学園生活は全般的に満足できる。	31	52	10	3	5
2	本校は建学の精神・教育方針を日々の活動に生かしている。	22	50	15	4	10
3	本校は学力向上をめざして積極的に取り組んでいる。	49	42			414
4	本校の多くの授業は内容が充実しており、また理解できるように工夫されている。	38	51	6		14
5	本校の先生は教科の質問にきちんと対応してくれている。	55	37			215
6	本校では学習や進路に関する生徒個人面談が十分に実施されている。	33	44	9	2	12
7	本校生は各自の目標をめざして学習に意欲的に取り組んでいる。	28	52	11		9
8	本校が早朝・放課後や休暇中に行っている補習授業等は生徒の学力向上に役立っている。	39	42	6		11
9	本校の各学年の校内実力テスト・業者テストは適切に計画・実施されている。	45	40	7		25
10	本校の各学年の進路指導は生徒一人ひとりの目標達成に役立つように行われている。	29	44	8	2	17
11	本校の保護者面談週間の面談内容・面談形式・日程等は適切である。	38	39	5		17
12	本校の保護者対象授業参観週間の参観要領・授業内容・日程等は適切である。	33	39	6		21
13	本校生は校則やきまりをおおむね守っている。	21	47	20		6
14	本校では日頃から基本的な生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーについての指導が行われている。	42	45	6		25
15	本校では校外学習・文化系行事・体育系行事などの学校行事が充実している。	24	35	25		12
16	本校の学校行事は、生徒や保護者が参加しやすいように日程等が配慮されている。	24	44	14	4	14
17	本校の部活動は、学習と両立しており、学校生活を充実させるためのものになっている。	28	42	13	5	12
18	本校の人権学習は効果的に行われている。	26	46	13	4	11
19	本校生は悩み事や困ったことについて、先生に気軽に相談することができる。	24	42	18	5	12
20	本校生は清掃活動やゴミの分別など、環境美化に取り組んでいる。	24	47	16	3	10
21	本校の施設・設備・ICT環境はよく整備・活用されている。	37	43	9	3	7
22	本校では健康管理が行き届き、安全な学校生活が送れるような配慮がなされている。	37	48	7		16
23	本校は保護者から学校へ気軽に相談できる雰囲気がある。	24	39	12	4	21
24	本校では日頃の生徒や保護者への連絡や情報公開は適切に行われている。	33	41	9	4	13
25	本校への電話や訪問の際に学校はていねいに対応している。	37	37	42		20
26	本校では非常時・緊急時の生徒や保護者への連絡は迅速・的確に行われている。	30	37	8	3	21
27	本校では非常時・緊急時の学習指導は適切に行われている。	33	43	9	2	13

2022(令和4)年度 学校評価 自己評価(教職員対象) アンケート

2022年11月

清風南海中学校・高等学校  
校長 平岡 正

2007年(平成19年)年6月に「学校教育法」、同年10月に「学校教育法施行規則」の改正により、自己評価及び学校関係者評価の規定が設けられ、2008年(平成20年)年1月、文部科学省より「学校評価ガイドライン[改訂]」が作成されました。さらに、2010年(平成22年)7月20日に、学校の第三者評価の在り方に関する記述を充実し、「学校評価ガイドライン[平成22年改訂]」に改訂されました。

さて、本校では建学の精神・教育方針に基づいて「社会から必要とされる学校づくり」「安心・尊敬・信頼の対象となり、信用され得る人物の育成」を目標に日々教育活動を行っています。この調査は、その教育活動等の成果を検証し、改善を行うことにより、生徒がより良い教育活動等を享受できるよう学校運営の発展を目指し、教育の水準の向上を図るために実施するものです。

つきましては、あとの質問について、先生方が平素どのように感じておられるか、ご回答いただければと思います。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

- ①よくあてはまる                      ②ややあてはまる  
③あまりあてはまらない              ④全くあてはまらない  
⑤判断できない(よく分からない)

集計結果

番号	質問項目	①	②	③	④	⑤	%
1	教職員からみて、本校生は本校の教育は全般的に満足できていると思っている。	23	66	0	6		
2	本校は建学の精神・教育方針を日々の教育に生かしている。	31	50	16	1		
3	本校は学力向上をめざして積極的に取り組んでいる。	52	43	3			
4	本校の多くの授業は内容が充実しており、また理解できるように工夫されている。	46	48	15			
5	本校の先生は教科の質問にきちんと対応している。	72	26	0			
6	本校では学習や進路に関する生徒個人面談が十分に実施されている。	34	51	10	5		
7	本校生は各自の目標をめざして学習に意欲的に取り組んでいる。	17	65	13	14		
8	本校が早朝・放課後や休中に行っている補習授業等は生徒の学力向上に役立っている。	35	47	11	2	5	
9	本校の各学年の校内実力テスト・業者テストは適切に計画・実施されている。	30	44	16	3	7	
10	本校の各学年の進路指導は生徒一人ひとりの目標達成に役立つように行われている。	23	55	11	0	11	
11	本校の保護者面談週間の面談内容・面談形式・日程等は適切である。	22	43	18	6	11	
12	本校の保護者対象授業参観週間の参観要領・授業内容・日程等は適切である。	21	52	14	6	6	
13	本校生は校則やきまりをおおむね守っている。	6	60	31	2		
14	本校では日頃から基本的な生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーについての指導が行われている。	30	57	10	2		
15	本校では校外学習・文化系行事・体育系行事などの学校行事が充実している。	31	44	18	3	4	
16	本校の学校行事は、保護者が参加しやすいように日程等が配慮されている。	14	52	26	1	7	
17	本校の部活動は、学習と両立しており、学校生活を充実させるためのものになっている。	28	47	14	3	9	
18	本校の人権学習は効果的に行われている。	18	46	20	7	9	
19	本校生は悩み事や困ったことについて、先生に気軽に相談している。	17	64	11	0	9	
20	本校生は清掃活動やゴミの分別など、環境美化に取り組んでいる。	19	54	21	2		
21	本校の施設・設備・ICT環境はよく整備・活用されている。	51	44	1			
22	本校では健康管理が行き届き、安全な学校生活が送れるような配慮がなされている。	46	44	5	1		
23	本校は保護者から学校へ気軽に相談できる雰囲気がある。	24	57	11	2	5	
24	本校では日頃の生徒や保護者への連絡や情報公開は適切に行われている。	30	54	10	1	5	
25	本校への電話や訪問の際に学校はいいねに対応している。	56	36	1	6		
26	本校では非常時・緊急時の生徒や保護者への連絡は迅速・的確に行われている。	46	44	0	10		
27	本校では非常時・緊急時の学習指導は適切に行われている。	24	56	7	1	11	

2022(令和4)年度 学校評価 学校関係者評価(保護者対象) アンケート

2022年11月

清風南海中学校・高等学校

校長 平岡 正

平素から本校教育の推進につきましては、ご理解とご協力をいただき感謝いたしております。

さて、本校では建学の精神・教育方針に基づいて「社会から必要とされる学校づくり」「安心・尊敬・信頼の対象となり、信用され得る人物の育成」を目標に日々教育活動を行っております。その教育内容を点検し、より充実したものにしていくため自己評価に努めるとともに、保護者の皆様からも評価を受けるため、学校評価アンケートを実施いたしたいと思います。

つきましては、あとの質問について、保護者の皆様が平素どのように感じておられるか、ご回答いただければと思います。本校の教育活動・環境を一層よくしていくため、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

- ①よくあてはまる
- ②ややあてはまる
- ③あまりあてはまらない
- ④全くあてはまらない
- ⑤判断できない(よく分からない)

集計結果

番号	質問項目	①	②	③	④	⑤
1	保護者にとって本校の教育は全般的に満足できる。	45	49	5		
2	本校は建学の精神・教育方針を日々の教育に生かしている。	43	47	5	5	
3	本校は学力向上をめざして積極的に取り組んでいる。	56	39	3		
4	本校の多くの授業は内容が充実しており、また理解できるように工夫されている。	35	50	8	7	
5	本校の先生は教科の質問にきちんと対応してくれている。	48	41	3	8	
6	本校では学習や進路に関する生徒個人面談が十分に実施されている。	38	45	10	6	
7	本校生は各自の目標をめざして学習に意欲的に取り組んでいる。	35	52	8	5	
8	本校が早朝・放課後や休暇中に行っている補習授業等は生徒の学力向上に役立っている。	41	42	7	10	
9	本校の各学年の校内実力テスト・業者テストは適切に計画・実施されている。	50	43	4	3	
10	本校の各学年の進路指導は生徒一人ひとりの目標達成に役立つように行われている。	27	45	12	16	
11	本校の保護者面談週間の面談内容・面談形式・日程等は適切である。	47	44	6	2	
12	本校の保護者対象授業参観週間の参観要領・授業内容・日程等は適切である。	36	45	12	25	
13	本校生は校則やきまりをおおむね守っている。	40	50	5	14	
14	本校では日頃から基本的な生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーについての指導が行われている。	48	44	5	3	
15	本校では校外学習・文化系行事・体育系行事などの学校行事が充実している。	26	46	23	4	
16	本校の学校行事は、保護者の皆さんが参加しやすいように日程等が配慮されている。	35	51	11	2	
17	本校の部活動は、学習と両立しており、学校生活を充実させるためのものになっている。	31	45	13	2	9
18	本校の人権学習は効果的に行われている。	25	47	6	21	
19	本校生は悩み事や困ったことについて、先生に気軽に相談することができる。	27	45	14	2	12
20	本校生は清掃活動やゴミの分別など、環境美化に取り組んでいる。	31	46	6	18	
21	本校の施設・設備・ICT環境はよく整備・活用されている。	38	46	8	6	
22	本校では健康管理が行き届き、安全な学校生活が送れるような配慮がなされている。	44	46	5	5	
23	本校は保護者から学校へ気軽に相談できる雰囲気がある。	31	46	18	23	
24	本校では日頃の生徒や保護者への連絡や情報公開は適切に行われている。	45	46	6	2	
25	本校への電話や訪問の際に学校はいいに対応している。	61	34	3		
26	本校では非常時・緊急時の生徒や保護者への連絡は迅速・的確に行われている。	50	39	4	6	
27	本校では非常時・緊急時の学習指導は適切に行われている。	37	39	8	2	13

## 2022(令和4)年度 清風南海中学校・高等学校 学校評価(図表版)

### 1 めざす学校像

- ・「安心」「尊敬」「信頼」の対象となり信用される人物の育成
- ・社会から必要とされる学校

### 2 中・長期的目標

- (1) 生徒指導の充実
  - ア.基本的生活習慣を確立し正しい身嗜みを励行するようさらなる指導を行う。
  - イ.相手の話をよく聴き、礼儀正しく、他者を思い遣る心を育てる。
- (2) 学習指導の充実
  - 授業の質を高め、そのことにより生徒の満足度を高める。
- (3) 進路指導の充実
  - 生徒一人ひとりの目標達成に役立つ、きめ細やかな進路指導を行う。
- (4) 信頼され魅力あふれる学校づくり
  - 地域、保護者、生徒、教員など誰からも信頼され、魅力あふれる学校づくりを行う。
- (5) グローバル時代の人材の育成
  - 地球規模の広い視野を持ち、課題解決に果敢に挑戦するグローバル人材の育成に取り組む。

### 3 本年度の取組みと達成状況

目標	重点目標	今年度の取組計画・内容	評価指導	自己評価	次年度に向けての改善策
(1) 生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣を確立し正しい身嗜みを励行し、自身自身のマナーに気を配り、心身を鍛えるようさらなる指導を行う。</li> <li>・相手の話をよく聴き、礼儀正しく、相手の立場になって物事を考え、他者を思いやる心を育てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の朝礼等を通じて、服装・整髪など目に見えるものだけでなく、ルールブックにないルール、社会の常識としてのルール等、規範意識の向上に生徒各人の自覚を促していく。</li> <li>・部活動を学習と両立した学校生活の充実に資するものとする。</li> <li>・他者を思いやる心を育てる。</li> <li>・生徒等のよき相談相手として気楽に相談できる教師をめざす。</li> </ul>	<p>「校則やきまりをおおむね守っている。」(アンケート13)</p> <p>「日頃から基本的生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーについての指導が行われている」(アンケート14)</p> <p>「部活動は、学習と両立しており、学校生活を充実させるためのものになっている」(アンケート17)</p> <p>「人権学習は効果的に行われている」(アンケート18)</p> <p>「生徒は悩み事や困ったことについて、先生に気楽に相談している」(アンケート19)</p>	<p>肯定： 教職員 66% 保護者 90% 生徒 68%</p> <p>肯定： 教職員 87% 保護者 92% 生徒 87%</p> <p>肯定： 教職員 74% 保護者 76% 生徒 70%</p> <p>肯定： 教職員 64% 保護者 72% 生徒 72%</p> <p>肯定： 教職員 81% 保護者 72% 生徒 65%</p> <p>※肯定評価が高く、成果がうかがえる。</p>	<p>教職員全体として生徒の問題行動の状況を共有するとともに、毎日の朝礼等を通じて、校内だけでなく、社会の一員としての意識（公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど）を身につけるよう指導をさらに徹底する。</p> <p>※肯定評価が60%であることを評価基準として、肯定評価60%以上の項目は継続して取り組みを進め、60%未満の項目については、改善・改革に向けての検討課題とする。</p>

<p>(2) 学習指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の質を高め、そのことにより生徒の満足度を高める。</li> <li>論理的に物事を考え、自分で解決する力を養う指導を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『教職員個々のチャレンジプラン(自己目標)』『全校生徒による全教科目授業アンケート』『教職員間授業見学』『教職員研修会』『保護者対象授業参観』等の一層の充実を図り、指導内容や説明・板書・発問などの指導方法についてさらに工夫を重ねる。</li> <li>生徒の実態を踏まえた個に応じた指導を、『面談期間』はもとより、年間を通じた『生徒個人面談』で、積極的・継続的に実施している。</li> </ul>	<p>「学力向上をめざして積極的に取り組んでいる」(アンケート3)</p> <p>「多くの授業は内容が充実しており、また理解できるように工夫されている」(アンケート4)</p> <p>「各自の目標をめざして学習に意欲的に取り組んでいる」(アンケート7)</p> <p>「早朝・放課後や休月中に行っている補習授業等は生徒の学力向上に役立っている」(アンケート8)</p> <p>「本校の先生は教科の質問にきちんと対応している」(アンケート5)</p> <p>「学習や進路に関する生徒個人面談が十分に実施されている」(アンケート6)</p>	<p>肯定： 教職員 95% 保護者 96% 生徒 91%</p> <p>肯定： 教職員 94% 保護者 85% 生徒 89%</p> <p>肯定： 教職員 82% 保護者 87% 生徒 79%</p> <p>肯定： 教職員 82% 保護者 82% 生徒 81%</p> <p>肯定： 教職員 98% 保護者 89% 生徒 92%</p> <p>肯定： 教職員 85% 保護者 83% 生徒 77%</p> <p>※肯定評価が教師・保護者・生徒ともに高く、成果がでていることがうかがえる。継続してさらなる伸長に取り組む。</p>	<p>“授業第一主義”の本校として地道で継続的な取組を進める。また、ICTの積極的な活用などによる協働型・双方向型の授業革新を推進し、教育の質の向上を目指す。</p> <p>ICT: Information and Communication Technology「情報通信技術」</p>
<p>(3) 進路指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりの目標達成に役立つ、きめ細やかな進路指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年において目標を適切に設定し、組織的・継続的に伸長・改善に取り組む</li> </ul>	<p>「学習や進路に関する生徒個人面談が十分に実施されている」(アンケート6)</p> <p>「各学年の校内実力テスト・業者テストは適切に計画・実施されている」(アンケート9)</p> <p>「各学年の進路指導は生徒一人ひとりの目標達成に役立つように行われている」(アンケート10)</p> <p>「保護者面談週間の面談内容・面談形式・日程等は適切である」(アンケート11)</p> <p>「保護者対象授業参観週間の参観要領・授業内容・日程等は適切である」(アンケート12)</p>	<p>肯定： 教職員 85% 保護者 83% 生徒 77%</p> <p>肯定： 教職員 73% 保護者 93% 生徒 85%</p> <p>肯定： 教職員 79% 保護者 72% 生徒 73%</p> <p>肯定： 教職員 65% 保護者 91% 生徒 77%</p> <p>肯定： 教職員 73% 保護者 81% 生徒 72%</p> <p>※肯定評価は60～80%台であり、継続してさらなる伸長に取り組む。</p>	<p>各学年において、生徒の発達段階を踏まえつつ能力・適正等の理解に必要な資料や、進路情報についての収集・活用に一層の充実を図っていく。また、個に応じた適宜・適切な指導に取り組む。</p>

<p>(4) 信頼され魅力あふれる学校づくり</p>	<p>・地域、保護者、生徒、教員など誰からも信頼される、魅力あふれる学校づくりを行う。</p>	<p>・建学の精神・教育方針・清風南海魂を常に意識し、生徒に常日頃から折に触れ周知徹底し、生徒に浸透させるよう努める</p> <p>・安全安心で快適な学習・生活環境のさらなる充実に向けて取り組む。</p>	<p>「本校の教育は全般的に満足できる」(アンケート1)</p> <p>「本校建学の精神・教育方針を日々の教育に生かしている」(アンケート2)</p> <p>「校外学習・文化系行事・体育系行事などの学校行事が充実している」(アンケート15)</p> <p>「本校の学校行事は保護者が参加しやすいように日程等が配慮されている」(アンケート16)</p> <p>「本校は清掃活動やゴミの分別など環境美化に取り組んでいる」(アンケート20)</p> <p>「施設・設備はよく整備されている」(アンケート21)</p> <p>「健康管理が行き届き、安全な学校生活が送れるような配慮がなされている」(アンケート22)</p> <p>「保護者から学校へ気軽に相談できる雰囲気がある」(アンケート23)</p> <p>「保護者への連絡や情報公開は適切に行われている」(アンケート24)</p> <p>「電話や訪問の際に学校はいいねいに対応している」(アンケート25)</p> <p>「非常時・緊急時の生徒や保護者への連絡は迅速・的確に行われている」(アンケート26)</p> <p>「非常時・緊急時の学習指導は適切に行われている」(アンケート27)</p>	<p>肯定： 教職員 89% 保護者 94% 生徒 84%</p> <p>肯定： 教職員 81% 保護者 90% 生徒 72%</p> <p>肯定： 教職員 74% 保護者 71% 生徒 58%</p> <p>肯定： 教職員 66% 保護者 86% 生徒 68%</p> <p>肯定： 教職員 73% 保護者 77% 生徒 71%</p> <p>肯定： 教職員 95% 保護者 84% 生徒 80%</p> <p>肯定： 教職員 89% 保護者 90% 生徒 85%</p> <p>肯定： 教職員 82% 保護者 77% 生徒 63%</p> <p>肯定： 教職員 84% 保護者 90% 生徒 74%</p> <p>肯定： 教職員 93% 保護者 95% 生徒 74%</p> <p>肯定： 教職員 89% 保護者 89% 生徒 67%</p> <p>肯定： 教職員 81% 保護者 76% 生徒 76%</p> <p>※いずれの項目も保護者からは高い支持が得られている。継続してさらなる伸長に取り組む。</p>	<p>『防犯講習会』『防災訓練』『防犯教室』『交通安全教室』『犯罪被害防止教室』『非行防止教室』『薬物乱用防止・防犯教室』『地震・津波警報発令時避難訓練』『コミュニティサービス』『教職員救急蘇生法・AED（自動体外式除細動器）研修会』等の成果を踏まえ、施設・設備の充実はもとより、教職員・生徒の安全対応能力の向上を図る。</p> <p>非常時・緊急時の学習指導に即座に対応できるよう、教材の準備・開発を推進する。</p>
<p>(5) グローバル人材の育成</p>	<p>・地球規模の広い視野を持ち、課題解決に果敢に挑戦するグローバル人材の育成に取り組む。</p>	<p>・情報社会への適切な対応の仕方をも身につける指導に取り組む。</p> <p>・建学の精神にもとづき、人種、言語、文化の異なる多様な環境における真のグローバルリーダーたりうる人材を育成するための学びと人格形成を図る。</p>	<p>グローバルコースの設置。 Super Global High School 指定。</p> <p>グローバル探究ゼミの設置。</p> <p>「本校は建学の精神・教育方針を日々の教育に生かしている」(アンケート2)</p> <p>「本校では人権教育が効果的に行われている」(アンケート18)</p> <p>「本校の施設・設備はよく整備されている」(アンケート21)</p>	<p>2015.4.1～2022.3.31 文部科学省から指定。</p> <p>2022年度在籍 高1 探求ゼミ 38名 高2 探求ゼミ 48名</p> <p>肯定： 教職員 81% 保護者 90% 生徒 72%</p> <p>肯定： 教職員 64% 保護者 72% 生徒 72%</p> <p>肯定： 教職員 95% 保護者 84% 生徒 80%</p> <p>※いずれの項目も高い評価が得られている。継続してさらなる伸長に取り組む。</p>	<p>グローバル教育およびグローバル探究ゼミのさらなる充実を図る。</p> <p>多様な価値観を持った生徒たちのグループでの探究活動を通じて、人を束ねることのできる人材育成の充実を図る。</p> <p>全 HR 教室への電子黒板の設置、Classie を用いた ICT 教育の充実、高校生全学年へのタブレット配付により、施設・設備の充実はもとより、内容面の向上情報ツールの活用指導を図る。</p>